SCJ

Newsletter of Save the Children Japan

日本で30年

未来へつなぐ、希望の足跡

海外事業―シリア危機 緊急支援レポート

国内事業―東日本大震災復興支援事業



Vol.68
April. 2016

Save the Children JAPAN

未来へつなぐ、希望の足跡

子どもたちと歩み続け、世界で97年。
そして日本で、30周年を迎えました。

1919年にイギリスで誕生し、世界中に広がったセーブ・ザ・チルドレン。「その志を日本でも」との思いから、1986年に日本でセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンが発足しました。皆さまに支えられ、子どもたちとともに歩み成長してきた30年を、振り返ります。





1919

1919年
イギリスで
セーブ・ザ・チルドレンが誕生

第一次世界大戦で荒廃したヨーロッパ。飢えに苦しむ子どもたちを救うため、敵国の子どもたちをも援助することに奔走したイギリス人女性、エグランタイン・ジェブによって、イギリスでセーブ・ザ・チルドレンが設立されました。





1986

1986年
日本でセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 設立

イギリスのセーブ・ザ・チルドレン総裁であるアン王女から日本での設立の提案を受け、大阪青年会議所と国際婦人福祉協議会の有志が中心となり「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」が設立されました。最初の活動は、フィリピンとタイの教育分野への支援でした。







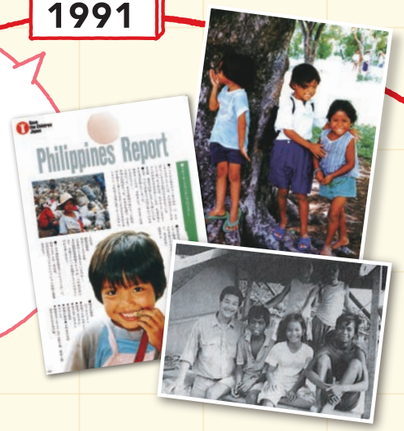
1988

アジアの外へ活動を拡大。メキシコ、ケニアでの支援を開始。

1991

1991年
フィリピンに現地事務所を開設、日本人スタッフを派遣

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとして初めての現地事務所を、フィリピンに開設。その後、2002年までにネパール、タイ、ベトナム、ミャンマー、アフガニスタンに現地事務所を開設し、日本人スタッフを派遣して教育等の分野で子ども支援を進めました。



1994

日米セーブ・ザ・チルドレンが合同で、旧ユーゴスラビアの難民緊急支援を開始。

1995

阪神・淡路大震災発生。子ども支援のNPOに資金協力。

2001

多国籍軍がアフガニスタン侵攻。緊急人道支援を開始。

2003

2003年
日本国内の子どもたちへの活動をスタート

子ども参加促進事業「Speaking Out〜みんなで話そう〜」を開始しました。子どもたちが子どもの権利の視点から自分の意見を表明できるよう、オリジナルの教材やゲームを活用した参加型学習プログラムを学校等で実施。開発した教材は、2009年に外務省主催のコンクールで優秀賞を受賞しました。



2005

2005年
災害被災地での緊急人道支援

スマトラ沖津波、パキスタン地震の被災地で緊急支援を実施。その後、2008年に発生したミャンマーのサイクロンや中国の四川大地震の被災地でも、子どもたちとその家族への支援に取り組みました。

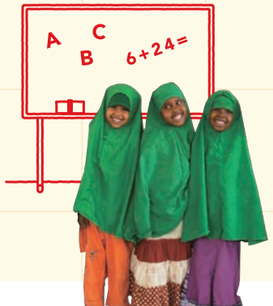


2006

日本での設立20周年。天皇皇后両陛下ご臨席のもと、チャリティガラが開催されました。

紛争下の教育支援のグローバルキャンペーン「Rewrite the Future いっしょに描こう!子どもの未来」開始。





プロサッカークラブ（Jリーグ所属）
柏レイソル



セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　創立30周年を心からお祝い申し上げます。長きにわたり、日本のみならず世界中で多くの子どもたちを笑顔にしてきた活動に心から敬意を表します。柏レイソルも貴会とともに2012年より海外での教育支援や国内事業を実施してまいりました。柏レイソルは、これからもセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとともに大切な子どもたちへの支援を続けていきます。今後とも、貴会の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

宮城県石巻市長
亀山紘 様



創立30周年おめでとうございます。震災後、貴会の復興事業の取組みとして「石巻市子どもまちづくりクラブ」が発足し、その活動の中で子どもたちのまちづくりに対する思いが「石巻市子どもセンター」に具現化され、本市に寄贈していただきました。以来、当館は、子どもによる子どものための施設として、また、子どもの権利の実現を目指す本市の子どもの社会参加の拠点として、地域に根ざして活用されていることを日々実感しております。今後も、子どもたちが活躍できる社会づくりのためにご協力をお願いしますとともに、貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

個人寄付者・
ボランティア
山田 節子 様



仕事の傍ら出来る範囲で子ども達を支援したいと思い、SCJでのボランティアを始めました。実際にイベントや報告会のお手伝いをしてみると、子ども達の置かれている状況がいかに厳しいか、改めて認識しました。それと同時に、スタッフの皆さまがそれぞれに強い意志をもって、支援活動に取り組まれていると感じました。僅かな時間ではありますが、これからもSCJの活動を応援し、子ども達やスタッフの皆さまと、共に歩む気持ちでボランティアを続けてまいります。

皆様に支えられて30年の節目を迎えられたことに、
心から感謝を申し上げます。
世界の子どもたちは、私たちに多くのことを教えてくれます。
かつて理事長として訪問した、アフリカ・スワジランドの子どもたち。
貧困の中にありながらも、子どもたちは将来の夢を持ち、
輝いて生きていました。

遠く離れていても、一緒にみんなで生きていく―。
課題の解決へ歩む決意を、子どもたちが与えてくれました。

世界中の子どもたちのために、変わらぬご支援をお願いいたします。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
名誉理事長　上野昌也



セーブ・ザ・チルドレンが
創設**100**年を迎えます。

2019

2016



2016年
日本での設立から30年を迎えました
世界中のセーブ・ザ・チルドレンと連携しながら、国内外を問わず、子どもを誰一人として取り残さないための取り組みを進めていきます。



シリア危機への対応開始。

2011

2011年
東日本大震災被災地での緊急・復興支援を開始
震災から3日後には東北に入り、避難所で子どもが安心・安全に遊べる「こどもひろば」の設置など迅速な緊急支援を開始。その後、岩手・宮城・福島県にて、教育や子どもの保護、子ども参加によるまちづくり、防災など多岐にわたる活動を展開。5年間でのべ188万人以上に支援を届けることができました。



ハイチ大地震発生。被災した子どもたちへの緊急支援を実施。

2010

当事者である子どもたち自身が声をあげ、社会に参加することで、日本の子どもの貧困問題の解決を目指す「Speaking Out Against Poverty（SOAP）～夢や希望をうばわれないために～」を開始。

モンゴルに駐在員を派遣し、ストリートチルドレンの支援等を開始。

2007

5歳未満児の死亡率削減を目指すグローバルキャンペーン「EVERY ONE 5歳の誕生日を、子どもたちに！」開始。

2009

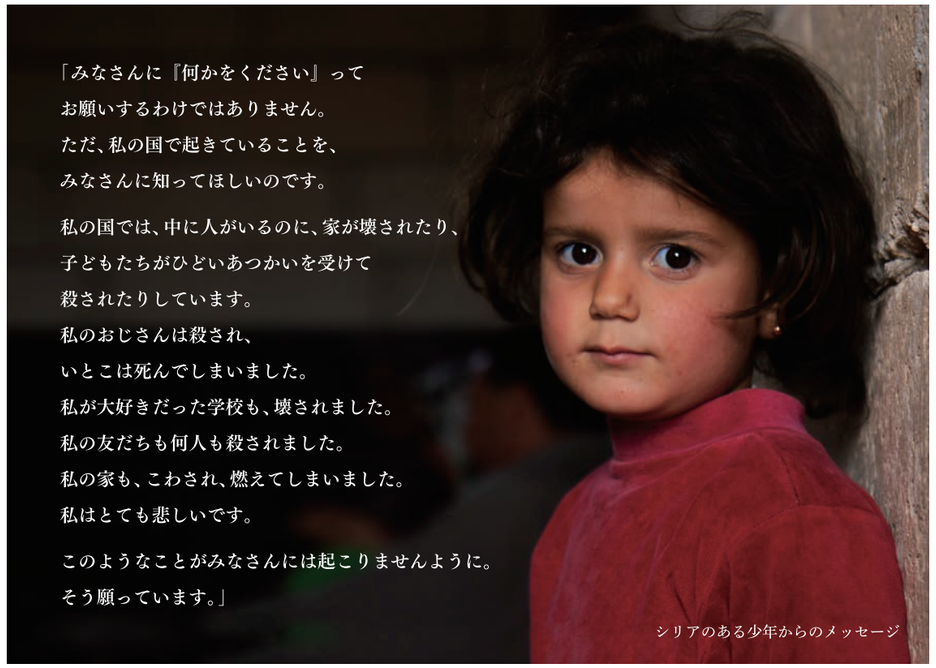
叩かない・怒鳴らない子育て「ポジティブ・ディシプリン」を書籍として日本向けに監修・出版。子どもの権利にもとづいた子育てとして、多数のメディアで取り上げられました。



THANK YOU!



紛争下を生きる シリアの子どもたち

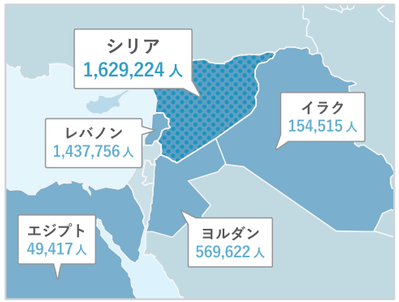


今世紀最大の人道危機とも言われるシリア危機が始まったのは、2011年。これまでに、シリアの人々の2人に1人が住む家を追われ、国内外で避難生活を強いられています。ヨーロッパに避難するシリア難民の問題が注目される中、いまだ25万人以上の子どもたちが、シリア国内で空爆や砲撃の危険にさらされた包囲下に取り残されています。

「恐怖がすべてを支配しています。子どもも大人も、自分が殺される順番を待ちながら生きている状態です」（首都近郊に暮らす母親）。「食料が足りず、子どもたちに草を食べさせたことがあります」（4人の子の父親）。「電気がなく、ろうそくの明かりで手術が行われています」（医療従事者）。

セーブ・ザ・チルドレンは、シリア国内外で子どもたちに今必要な支援を行うと同時に、この危機が一刻も早く解決されるよう、全ての紛争当事者と国際社会に求めています。

セーブ・ザ・チルドレンがシリアと周辺国で支援を届けた人数
（2016年2月時点）



シリア危機 緊急支援レポート

セーブ・ザ・チルドレンはシリア国内とレバノン、ヨルダン、イラク、エジプトで、これまでに3,840,534人（内、子ども2,438,462人）の人々を支援してきました。これまでの活動をご報告します。（2016年2月時点）

教育



25％の学校が攻撃等により使えなくなったシリアでは、北部地域の子どもたちに対し、学校で学び続けられるよう支援。周辺国では、難民キャンプ等で臨時学習所を開設するほか、通学バッグや制服、学費等を提供しました。

子どもの保護



大きなストレスを抱えている子どもたちが日常を取り戻せるよう、安心して遊んだり学んだりすることができる「こどもひろば」を開設。シリア国内で16ヵ所運営するほか、避難キャンプでは「移動式こどもひろば」も展開。

食と生計



食料不足に直面する人々に対し、ヨルダンの難民キャンプでは毎月514トンの食料を提供。レバノンやエジプトでは、社会スキル・専門スキルを身につける研修の機会を若者に提供し、将来の雇用につなげる支援を行っています。

スタッフの声

いつもご支援をありがとうございます。日本の皆様が関心を持ち続けてくださることが、私たちの大きな励みです。紛争下という過酷な状況で暮らすシリアの子どもたちの希望となるよう、粘り強く活動を続けていきます。



海外事業部
藤井麻衣子

シェルター・生活必需品



寒さをしのぐためのテントや冬服のほか、台所用品や衛生用品などの必需品を、パートナー団体との協働でシリア国内にて145,000人に提供。

保健・栄養



シリアでは、パートナー団体との協働で5つの保健・医療施設を支援。周辺国では乳幼児への栄養支援やワクチン接種を実施しています。

活動レポート

震災から5年、東北の子どもたちとともに。

あの震災から5年を迎えた東北。復興へと一歩一歩進んでいく地域で、子どもたちはいま何を思い、どんな未来を描こうとしているのでしょうか。



「大人も子どもも困っている時は必ずあると思う。そんな時は助け合って生きる必要がある。〝子どもだからダメ〟って言葉は必要ない。〝力〟になりたいと思ってはダメですか?」（中3・女）

2015年11月から12月にかけて、セーブ・ザ・チルドレンが行政と協働して、宮城県石巻市で小学4年生から高校生約8100人を対象に行った調査によると、約6割の子どもたちが、復興に関わりたいと声をあげました。

「2011年のあの日、私は現実から逃げていました。外を見ればガレキが積み上がっていて、自分の町は汚れていると思っていた。でも、そのままだったらここを嫌うことになってしまう。だから自分の町にしっかり向き合いたいと思いました。」（中1・女）

子どもたちの声を聴き、子どもたちが復興や防災の主体者となれるよう続けてきたセーブ・ザ・チルドレンの復興支援。5年間の活動は一つの区切りを迎えますが、その活動は実を結び、地域の子どもたち、行政、NPOなどへと引き継がれています。

「復興に向けて、その中心となっていくのは私たち。まだまだ自分にはたくさんの可能性があるはず。これからも自信を持って前へ前へと進んでいきたいです。」（中3・女）

東北の子どもたちが描く今と未来を実現するために、これからも子どもたちを見守ってください。



東日本大震災復興支援事業から国内事業へ

2003年より実施してきた国内事業の知見をもとに、2016年からは、子どもや養育者への直接支援、市民社会への啓発、政策提言を通じて、子どもの貧困問題の解決や、子ども虐待の予防に取り組みます。当初3年間は、東日本大震災復興支援事業を通じて築かれた行政や地域とのパートナーシップをもとに、東北や関東圏を中心に、日本の子どもの生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」の実現に努めていきます。



2015年、個人サポーターや企業の皆さまのご支援でたくさんの活動が実現しました。

子どもの保護



放課後の子どもの居場所を支える学童指導員への研修

学童指導員が日々の保育の質を高めるための機会として、行政や関係機関と連携し数々の研修を実施。また、これらの研修が地域に根付くように働きかけました。

教育



復興に向けて水産業や農業を学ぶ高校生への給付型奨学金

水産業や農業を学ぶ東北3県の高校生に給付型奨学金を支給。「資格取得をはじめ多くのことにチャレンジできた」「学校で学んだ知識を活かし水産業全体を支えたい」と生徒たち。

コミュニティ・イニシアチブ



子どもの学び・遊び・育ちを支える地域のNPOを支援

岩手・宮城・福島県の子ども・子育て支援 NPO のべ 74 団体を支援。助成や組織基盤強化、研修等を通じて、のべ 146,000 人を対象とした様々な活動を支えました。

福島



福島県の子どもたちを対象に放射能リテラシーワークショップ

子どもたちが放射能について学び、自分なりに判断できる力を養えるよう、小中学校でワークショップを実施しました。ワークショップをもとに教材も開発中です。

子どにやさしい地域づくり



子どもたちが行政や地域と連携し企画・デザインしたセンター

子どもまちづくりクラブをはじめ町民の思いがつまった「山田町ふれあいセンター」。小中高生世代をはじめとする子どもの居場所と図書館機能を持つ公益施設が、今年ついに完成。

防災



子どもを通じて学校と地域が連携した、楽しく学ぶ防災

震災の経験をもとに開発した、子どもたちが楽しく学べる防災教育教材。これらを活用し、地域の子どもと大人が一緒に防災に取り組みました。

SCJ広場

遺贈・相続財産寄付　事例紹介

尊いご遺志が、スリランカの子どもたちに届きました。

日本で教員をされていた故組橋和子様の、「海外の子どもたちにも充実した学習環境で学んでほしい」という想いが、スリランカの子どもたちと先生に届きました。

組橋様のご支援により、スリランカ北部州ムラティブ県のコクトドゥバイ小中学校で校舎の建て替えを行うことができました。この地では、2009年まで内戦が続き、住民は長い間避難生活を送っていました。内戦が終了して、帰還する人は徐々に増えましたが、支援が限られていたため学校は荒廃したままで、学ぶ環境が整っていませんでした。

この小中学校には、きちんとした教室は1棟しかなく、葉っぱの屋根とトタンの囲いで作られた仮設の教室で、子どもたちは授業を受けていました。教室が足りないだけなく、雨季には雨が教室に入り込んで、たびたび授業が中断されたり、夜中に牛や鳥などの動物が校舎に入り込んで教室を汚してしまうなど、子どもたちが学ぶうえで、さまざまな困難がありました。

今回のご支援により、校舎は子どもたちが安全に学べる場に生まれ変わりました。学校を囲むフェンスの設置や、教室の電気配線工事なども行われ、「今は新しくきれいな校舎で学ぶことができて本当に嬉しいです」と、子どもたちと先生の笑顔があふれています。


改修前


改修後



教員としてご活躍された組橋様を同じ教員として尊敬しています。


コクトドゥバイ小中学校
ラジャセカ・
ケセシュワリ先生

尊い想いを世界の子どもたちに届ける、相続財産寄付や遺贈によるご寄付を受け付けています。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンへのご寄付には相続税が課税されません。

お問い合わせ：03-6859-0068（平日9:30〜18:00）

Facebookのファンが10万人を突破しました！

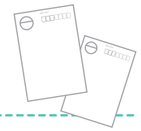
世界の子どもたちの様子や活動の報告、イベント情報など、Facebookで最新のお知らせをお届けしています。ぜひページに「いいね！」をして、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの情報をご覧ください。

https://www.facebook.com/SCJ.SavetheChildrenJapan



同封の封筒でお送りください

未使用はがき・書き損じはがきが支援につながります



買いすぎて余ってしまった年賀状や、書き間違えてしまった未投函の官製はがき、お手元にございませんか？これらは換金のうえ、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動費として大切に活用いたします。他にも未使用の切手や未使用のテレホンカードを集めています。同封の封筒でぜひお送りください。

©Hannah Maule-Ffinch, Ahmad Baroudi, Sandy Maroun, Anna Kari, Lucia Zoro, Vishwanathan, Mats Lignell, Nour Wahid, Stuart Sia, Hedinn Halldorsson / Save the Children
表紙：ヨルダンの難民キャンプで暮らすシリア難民の子どもたち。セーブ・ザ・チルドレンの幼稚園にて。

30TH ANNIVERSARY INTERVIEW

30周年記念インタビュー

「世界の子どもたちの幸せに、ファミリーマートができること。」

店頭募金箱や社員参加による活動など、
様々な形で取り組んできたこれまでの連携や、その背景にある思いを、
株式会社ファミリーマート 取締役常務執行役員の北村喜美男様に伺いました。

あなたと、コンビに、FamilyMart

一人一人の協力が大きな力に。





ファミリーマートは、1993年に日本で初めて店頭レジカウンターに募金箱を設置したコンビニエンスストアです。「この店頭募金は、もともとセーブ・ザ・チルドレンへの募金として始まりました。その意味では、セーブ・ザ・チルドレンは、私たちの社会貢献活動の原点とも言えます。」

店頭募金「夢の掛け橋募金」や「グローバルこども募金」「マッチング寄付」等を通じたセーブ・ザ・チルドレンへの寄付額は、2015年度までに累計で12億3000万円に上りました。「これは、それぞれの地域のお店で募金をしてくださった、お客様一人一人の協力が積みあがった金額です。よく支援先の団体等から表彰状をいただくことがありますが、これは我々への表彰だけではなく、お店で募金をしてくださった方々への表彰状だと考えています。お客様一人一人のご協力があってこその募金であり、募金箱が1万店以上の店舗にある意味がまさにここにあるのだと思います。」

地域社会に不可欠な社会・生活インフラとして。



「今やコンビニは、“便利なお店”を超えた、各地域になくてはならない社会・生活インフラです。東日本大震災の日、私も会社から歩いて自宅に帰りました。その時、多くの人たちがコンビニに立ち寄るのを見て、その存在の重要さを実感しました。これからも、社会に頼りにされる存在であり続けたいと思いますし、そうあり続けられるように不断の努力をしたいと思います。」震災後、セーブ・ザ・チルドレンとファミリーマートは、支援物資の搬送をはじめ、わかめの販売をする東北の中学生たちに社員が販売指導の授業をするなど、様々な取り組みを重ねてきました。



「ファミリーマートは、地域社会の一員として、出店地域・出店国における次世代の育成・支援は大きなテーマの一つです。2013年、世界のファミリーマートのメンバーが集まって、セーブ・ザ・チルドレンと共にグローバルな子ども支援をしていこうと決めました。

そこで始まったのが、タイやベトナム、それからインドネシアでの子どもの防災・減災教育です。現地社員も参加し、地域の課題を知る機会にもなっています。教育や環境の活動は、成果が実るのに長い時間がかかります。しかしやらないといけません。今できることを地道に継続していくことで、いつか花が開き、未来につながると考えています。」

2016年4月1日から4月30日まで、全国のファミリーマートの店頭募金箱で「グローバルこども募金」が展開されます。
期間中の募金は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンがアジアで行う防災（災害リスク軽減）教育に役立てられます。ぜひご協力ください。

Save the Children JAPAN
発行：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4F
ご支援に関するお問い合せ：03-6859-0068（平日 9:30-18:00） 2016 年 4 月発行

自然災害や紛争の中を生きる子どもたちに。

異常気象による干ばつや雪害。そして、シリアをはじめとした地域で続く紛争。
皆さまのご寄付が、子どもたちの暮らしを変える力になります。あたたかいご支援をお願いいたします。



エチオピアでは過去50年で最悪の干ばつが深刻な食料不足を引き起こしています。

例えば約5,000円で

栄養不良の子ども6人に、
1週間分の**栄養治療食**を提供できます。



シリアでは5年にわたって紛争が続き、人口の半数が住む家を追われています。

例えば約10,000円で

布おむつやおくるみ、服などの
新生児用品1人分を提供できます。



紛争や自然災害は、遊んだり学んだりする機会を子どもたちから奪います。

例えば約20,000円で

避難先の教室で子どもたちが使う
教材や**遊具一式**を提供できます。

ご寄付には同封の振込用紙をご活用ください。クレジットカードによるご寄付も受け付けています。

報告書が完成しました！



東日本大震災緊急・復興支援事業報告書

5年間の軌跡 ～子どものために・子どもとともに～

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、震災直後から緊急支援を開始し、多岐にわたる活動でこれまでのべ約188万人に支援を届けることができました。皆さまからのたくさんのご支援に感謝申し上げます。

この度、5年間の活動報告書「5年間の軌跡～子どものために・子どもとともに～」が完成いたしました。特設サイトからぜひご覧ください。

http://www.savechildren.or.jp/lp/tohoku_report2016/

編集後記

表紙の写真は、シリア難民の子どもたちです。この写真を撮影したカメラマン自身も、シリアから隣国へ逃れてきた難民の一人。「1枚の子どもの写真が、千のレポートに勝ることもある」と話します。ニュースレターの1枚1枚の写真から、背景にあるストーリーを感じていただけたら嬉しいです。（編集担当：高橋）